

初詣は先ず我が家の仏壇から

正月に雑煮を食べ、一家で神社に初詣するのは、多くの日本人の習慣になっていて、これをしないと、せっかくなの晴れ着も見せる場がないし、正月らしい気分がしないという人が多いと思います。

ところで、神社に詣られる前に忘れないで欲しいのが、我が家のご仏壇にお詣りすることです。

今日ここにこうして、新しい年を家族そろって迎えることができたのも、それはただの偶然ではなく、はるか昔から、途絶えることなく生命の火を灯しつづけて来てくれた、何代にもわたるご先祖様のおかげであり、そう思えば、こうして人として生まれ、生きていることを（そこには色々つらいこと、苦しいことがあるにせよ）、深く感謝すべきでしょう。

また現在の生活は、実に多くの人々の労働と智慧のおかげだと思えることにも思い至る必要があると思います。

仏壇の前で手を合わせるの、何かを祈願するということよりも、そうした感謝の気持ちを、合掌という形で表すのです。それから、初詣の帰りに、どう



かお墓参りもしてください。「暮れにお参りを済ませたから」と言わずに、「ご先祖様おめでとございます。こうして家族みな無事で正月を迎えました」と墓前に報告すれば、新春らしい晴れやかな気持ちになるものです。

お子さんたちに、小さいうちから感謝し手を合わせる習慣をつけ、優しい心を育てましょう。



伝言板

努力する人は、希望を語り、

怠ける人は、不満を語る。

だから酒はやめられない (その二)

ある夜 甲氏が同僚の乙氏に「今夜あたり一杯どうですか」

乙氏「実は最近、あることで願を立てまして、三年間禁酒することにしたんです。申し訳ないが……」 甲氏「へえ、しかし昼はともかく、夜も一滴も飲まないというのは、かえって体に毒だから、こうしちゃあどうです。昼は飲まずに夜だけ飲み、そのかわり三年のところが六年にすると。これだったら楽じゃない」 乙氏「そりゃいいね、じゃあそうしましょう」

その乙氏、日曜日の午後、ある祝いの席についたとき、となりの席の丙氏から「どうです、一杯」と誘われた。

甲氏「いや、実はこれこれのわけで、昼間だけは飲まないと決めています」 丙氏「なるほど、しかしそうするくらいなら、いつそ昼も夜も飲んで、その代わり、六年を十二年に延ばしたらどうです」

乙氏「それもそうです、なんでそれに気がつかなかったんだらう」 酒好きの人は、何かにつけ飲む口実を探しているようです。 小話集より

仏教が生んだ日本語

妙 (みょう)

「妙」は、サンスクリット語 sat (サット) の訳語で、不可思議、絶対で比べるものがないことをいう語である。妙法「比較するものなくすぐれて不可思議なる法」、妙理「深妙不可思議の道理」などという。開経の偈 みみょうのほう 中にある「微妙の法」は、「覚りの世界、仏教の世界は我々の心も言葉も及び難い不可思議なものである」ということであり、そのような教の世界を讃えたものである。

空海の言葉 シリーズ

おんごん わし お 遠近に趁り逐い、名利の

あな お 坑に墜つ ひでうほうやく 「秘蔵宝鑑」

●●●多くの人が、自分の欲望を満たすために、名誉や財宝を追いかけて墮落する。

凡夫は善悪に盲いて (欲望に目がくらみ、善悪の判断ができない)、因果あることを信ぜず (因果応報という簡単な法則が信じられない) 眼前の利益のみ見る (そんなに目先の利益ばかり追っていると)、いづくぞ地獄の火を知らん (間もなく地獄へ落ちて、業火に焼かれるのがわからないのか)。と弘法さんは、忠告している。



涅槃会 二月十五日は、お釈迦様が沙羅双樹のもとで涅槃に入られた日です。お寺では、涅槃図を掲げ仏恩に報謝し供物を供え皆様の参詣をお待ちしています。